

# ともに 前に 1 歩

湯沢市  
地域学校協働活動  
ニュース

## 1 子どもの見守り活動の実態

見守り隊（スクールガード、〇〇安全隊など）の登場は、1997 年（平成 9 年）須磨連続児童殺傷事件や 2001 年（平成 13 年）大阪教育大付属池田小の児童殺傷事件の後です。全国規模で進められ、秋田県でも、各市町村ごとにスクールガードリーダーが任命されました。小学校単位で「見守り組織」がつけられましたが、現在は、県の組織や、湯沢市全体の組織はなく、警察や行政から指示をうけて動くことはありません。かつては、各小学校で構成内容が異なり、隊長がいて主体的に動ける〇〇見守り隊、教頭が事務局になり学校から依頼する見守り隊、PTAの校外指導部が中心となる見守り隊などバラバラなものでした。そこで、一昨年湯沢市では、見守り隊の組織を統一しました。

- ・見守り隊は、各小学校ごとに構成され、地域やPTAの見守りボランティアが主体となり、代表者を置く。
- ・見守り隊活動は「地域学校協働活動」の一環であり、ボランティア活動として捉える。（保険加入済み）
- ・名簿やその運営は、地域学校協働活動推進員がとりまとめをし、すべて学校と共有する。

地域と保護者そして学校とが一体となって、子どもの安全・安心を守る活動であることを確認しています。日々の活動は、見守り隊に所属する方々の献身的な姿勢に頼っています。見守り隊の総会を開いている学校もあります。また、ほとんどの小学校では、年に 1 回、児童による「感謝の会」が行われていて、見守り隊の方々も喜んで参加しています。



### 参考資料

#### 見守りは誰が担当するのか？

学校保健安全法では、学校が児童生徒の安全を確保する責任は校内に限られている。日常的な登下校中の見守りは、保護者が責任を負う。しかし、捉え方の違いがある。学校での事故による怪我などを補償する災害共済給付制度では、登下校中も「学校管理下」の範囲で補償の対象なので、誤解されやすかった。

学校でやることは、児童生徒への安全教育である。しかし、現場では、教員による学校付近での登校指導や交通安全運動期間の街頭で指導、バス乗車指導、危険箇所見回りも随時行っている。

#### 湯沢市の見守りの現状

- ・見守り活動の役割分担や方法など、見守り隊へ市からの指導・提案等は特段実施していないが、**地域学校協働本部**から情報提供や連絡を行っている。（活動は、見守りが中心であることを浸透させる）
- ・ボランティア（保険加入）の連絡調整やサポートは、**地域学校協働活動推進員**が行っている。
- ・家族の方がバス乗車付近や登校付き添いをする場合も多い。（児童の卒業とともにやめる例）
- ・通学路の危険箇所安全点検は、学校や学校教育課、警察、諸行政機関が**毎年協働で実施している。**

## 2 地域ボランティアの声の紹介

普段の生活で、「ありがとう」といってもらうことはほとんどなかったですが、アサガオ植えに手伝ったところ、子どもたちから「ありがとう」とたくさん言ってもらって、本当に感動しました。「ありがとう」と言ってもらうことがこんなにもうれしいなんて！今は子どもたちと会うのが楽しみです。

見守り活動では、子どもたちとコミュニケーションを取り、挨拶を交わすことが何よりも嬉しいです。当初は義務感で活動していたのですが、活動を重ねるにつれ、今では、朝になると自然と体が動いてしまいます。卒業生からは感謝の手紙をもらいました。



◎ 一度学校に来ていただいた方は、学校への抵抗が薄まりボランティアを継続してくれますが、ボランティアをやる前には、こんな言葉も聞かれます。

家族からも、迷惑かけたらだめだと止められた。「ナニ オシエルッテ」

子どもたちの前でしゃべるなんて。恥ずかしくて、人前には無理！？

学校は敷居が高いから行きにくいな。「ジブンダデ ヤッタラヨ」

★ 学校の敷居を下げるにはどうすればいいのでしょうか。各学校の協働本部でも、様々な工夫はしていますが……。決して教えるのではなく「活動の見守りや補助」が中心であることを周知させていきます。

## 3 めざす協働活動とは →よく聞かれる言葉があります

●中学校では、基本的に地域の人の手伝いはいりません。生徒の自主性が育ちませんから。

●小学校でも、今回は子どもだけでできるので手伝いはいりません。

手伝う、手伝われるという一方通行では、その関係は持続しません。できないことをやってもらうことだけでは学校支援活動となります。これも地域学校協働活動の一つではあるのですが、ねらいを共有して一緒に活動するという協働活動という考えには到達していません。地域学校協働活動とは、児童生徒も地域の方も互いに成長を感じる活動のことを言います。学校の多忙化を考えると大変ですが、これまでの地域貢献もやってあげる意識から共に成長する機会ととらえてみてはどうでしょうか。



右の写真は、田植えを見守る地域の人です。子どもたちが美土里ネットの方に教わり、田植えを頑張っています。ボランティアも参加しましたが、さほど手伝うことはありません。しかし、この田植えを見守った地域の方は、ただの見物客ではありません。学校を支える「応援団」として参加しています。「地域の人が見守る活動」の意義も感じた一コマでした。



@YUZAWA\_CHIIKIGAKKO

Instagramで湯沢市地域学校協働本部全体の活動を紹介しています。各学校でどんな活動を行っているのか、是非みてください。左のQRコードをお願いします。

活動や資料についての問い合わせ  
湯沢市地域学校協働本部  
統括推進員 鎌田 まで  
(生涯学習課 直通 73-2163)